



ほうりゅうじ 法隆寺は、いつできたの



7世紀の初めに建てられたが、670年に火事で
焼け、その後、再建されたようだよ。

法隆寺は、奈良県斑鳩町にあります。内部は、西院・東院の2区画に分かれ、西院には金堂・五重塔・大講堂などの建物、東院には夢殿・伝法堂などの建物があります。

前の名前は、斑鳩寺だった

聖徳太子は、601年に、斑鳩の地に斑鳩宮を建て、まもなく、その近くに斑鳩寺を建てました。斑鳩寺は、法隆寺の前の名前です。法隆寺の東院で発掘された建物のあとが、斑鳩宮のあとで、西院の南東の空き地にある、若草伽藍あととよばれる建物のあとが、斑鳩寺のあと、と考えられています。

606年には、すでにあっらしい

斑鳩寺の名前が、「日本書紀」に最初に出てくるのは、推古14年(606年)のところです。斑鳩寺は606年には、すでにあっしたことになります。金堂の薬師像の光背(仏像の後ろにある、かがやく光を表すかざり)に、推古15年に完成したという文が、書かれていることから、607年とする説もありますが、この文は、用語や文体が当時のものではないなどの、疑いがかけられています。

再建された時期については、いろいろな説がある

若草伽藍あとにあった斑鳩寺は、670年に火事で全焼しました。その後、再建されたのが、今の法隆寺の建物です。再建された時期については、いろいろな説があります。最近、7世紀の末に近いころで、8世紀には入っていない、と考える人が多いようです。